

長久保城(長窪城)(駿東郡長泉町下長窪)(城山神社)

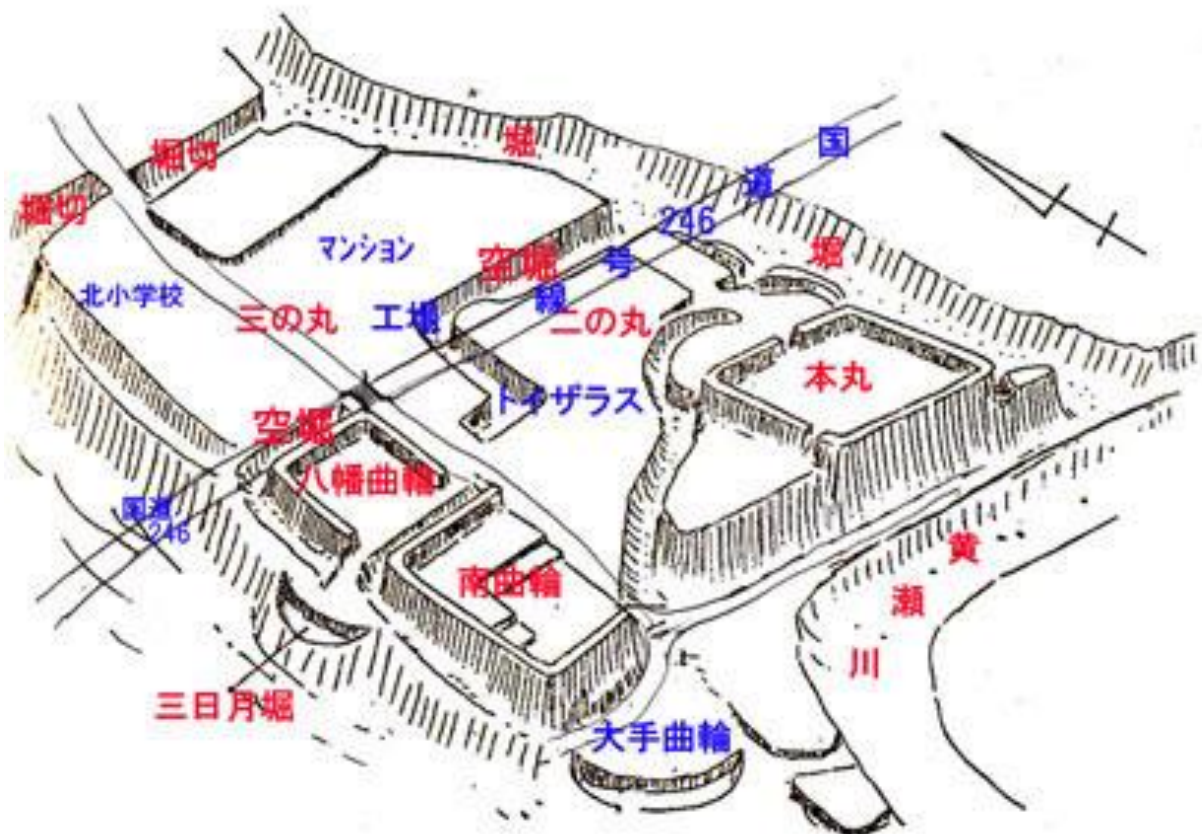
長久保城（ながくぼじょう）は、静岡県駿東郡長泉町下長窪にあった日本の城。

概要

築城時期や築城者は不明であるが、大友親頼の三男親政が、1439年（永享11年）の足利持氏滅亡（永享の乱）により今川氏に仕え、駿河国駿東郡長久保を領していたため一説には長久保氏の築城とも言われる。戦国時代には今川氏、後北条氏、武田氏との間で争奪戦が繰り返された。1582年（天正10年）の武田氏滅亡後は徳川家康の持城となった。関東に家康が移封されると中村一氏の持城となったが、1600年（慶長5年）に移封され長久保城は廃城となった。

現在は城山の削土や土地改良、道路建設で本丸跡は消滅し、城山神社境内の土塁と空堀、北小学校の周辺に三の丸の遺構が残るのみになっている。

Wikipediaによる





三の丸跡は、主小（校舎、運動場、プール）と児童館、近くの建物、工場など



北小較歌の中にも
「城山の学びの森に」



長久保神社記念碑と
長久保城跡の跡



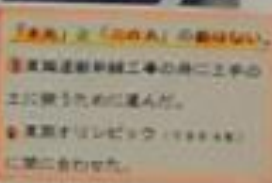
二の丸跡は
駐車場と国道246号



鎌山跡（梅ノ木沢川）
長久保城の東端



本史跡は
ウエルディーに、
文手門が手前であった。



歴史
長久保城とは？
2階 長久保城(2006)

